

8 集中治療室

集中治療室は8床だが昨年に引き続き6床で運営。心筋梗塞・心不全等の循環器疾患、意識障害、肺炎・呼吸不全等の呼吸器疾患、消化器癌、肺癌、泌尿器癌等の大手術後と多岐にわたる疾患を受け入れた。心臓カテーテル検査及び治療時にはICU看護師が検査介助に入り、引き続きICU看護も担当する切れ目のない体制で治療に当たった。さらに各科医師に勉強会開催を依頼し積極的に知識を深めた。

問題点は稼働率が低い点である。従来は救急外来の後方ベッドとして効率的に活用できていたが、要件が変更となり一定の医療必要度を満たす患者を収容するように義務付けられた。このため入室に制限をつけざるを得なくなり稼働率が40%近くに低下している。

(文責 集中治療室長 小野塚 聡)

9 手術室

2014年の手術件数は1,727件で、前年度比98%でした。診療科別手術総件数でみると、外科402件、乳腺外科108件、呼吸器外科38件、整形外科295件、泌尿器科351件、婦人科118件、形成外科13件、耳鼻咽喉科95件、脳神経外科23件、循環器内科12件、心臓血管外科10件、歯科口腔外科28件、皮膚科63件、眼科166件でした。

麻酔科管理症例は、1275件(前年度比96%)で、各科麻酔は453件(前年度比105%)でした。各科麻酔には皮膚科、眼科のほかに循環器内科、心臓血管外科の内シャント増設やペースメーカー植え込み等も含まれます。

このように2014年度は、各科麻酔件数や病棟・外来での検査・処置件数が増加したことから単品器械の滅菌処理方法が増えました。そこで、滅菌処理回数を抑えるために、診療部とともに手術器械コンテナ内容の見直しを行い、不要な器械を減らしたり、使用頻度の高い手術器械をセット化するなどの変更をしました。また、手術器械にはリユース製品が多く存在するため、リユース製品の抽出を行い、手術室・ICU委員会で検討し、原則単回使用とすることを決めました。

さらに手術室には、高度な医療機器や手術材料が多くあります。そこで、手術室にある医療機器や手術材料リストアップを行い、管理の見える化をしました。将来的には、保守点検を臨床工学士が担うように要望するとともに、稼働していない手術材料の見直しを行いました。これらの改善については、診療部はもとより、関連部署と連携し、安全で効率的な手術室運営ができるように検討したことが成果に繋がったといえます。

手術室の安全、効率化を進めていくには、医療機器の保守点検を臨床工学士が担い、手術室薬剤管理を薬剤師が行い、物品管理を管理業者に任せ無駄を省いていくことが重要です。麻酔科医師、手術室看護師が本来の職務である安全な麻酔と看護の提供を実践できるよう進めていきたいと思えます。

(文責 手術室師長 竹内 由香)